

対話型鑑賞プログラム ACOP 体験セミナー



京都造形芸術大学アート・コミュニケーション研究センターでは、アート作品の対話型鑑賞プログラム ACOP/エイコップ (Art Communication Project) の美術・博物館、学校教育を対象とした普及活動に加え、2012年度より、企業内人材育成として応用する取り組みを開始しました。

研修対象は新入社員から管理職まで広く、セルフラーニング、チームビルディング、ダイバーシティをテーマとした研修プログラムを開発・実施しています。本取り組みが朝日新聞出版「週刊AERA」2017年12月4日号、東洋経済新報社「週刊東洋経済」2018年1月13日号に掲載されるなど、対話型鑑賞の研修効果は、多くの方々のご注目を集めています。

(本センターWEBサイトの「NEWS」より、記事をご覧ください <http://www.acop.jp/>)

このたび、経営者、人事ご担当者ほか、組織マネジメントやチームビルディングに関わる方を対象に、対話型鑑賞プログラム ACOP を実体験していただくセミナーを企画いたしました。以下にご興味のある方は、ぜひご参加くださいませ。

- ・アート作品の対話型鑑賞を用いた新たな人材育成手法
- ・自ら問い、考え、他者とともに成果を生み出すことができる人材の育成
- ・既存の枠組み、一つの答えに捉われることなく、常に新たな可能性へ意識を向けられる人材の育成
- ・チームメンバーひとり一人の持ち味を活かすチームビルディング
- ・価値観、経験の異なる人材が互いを認め合い、建設的にコミュニケーションできる組織の形成

■ 概要

- 日時 : 2018年3月5日(月) 14:30~17:00 (14:00開場)
- 会場 : 京都造形芸術大学 外苑キャンパス
〒107-0061 東京都港区北青山1-7-15
・JR総武線「信濃町」徒歩5分
・東京メトロ半蔵門線・銀座線・都営地下鉄大江戸線「青山一丁目」徒歩10分
- 定員 : 30名 ※1社2名様までのご参加とさせていただきます
- 参加費 : 無料
- 内容 : ACOPに関する事前レクチャーおよびプログラム体験、質疑応答
- 講師 : 岡崎 大輔 (京都造形芸術大学 アート・コミュニケーション研究センター専任講師)
- 主催 : 京都造形芸術大学アート・コミュニケーション研究センター

■ お申し込み

お申込はメールにて先着順で受け付けます。メール件名を「ACOP 体験セミナー申込」とし①~⑧の必要事項を【info@acop.jp】までお知らせください。3営業日以内に担当より返信いたします。
※万が一3営業日を過ぎても返信がない場合は、お手数ですがその旨メールにてお知らせください。

- ①氏名 ②所属 ③部署 ④役職 ⑤住所 ⑥電話番号
⑦このセミナーをどこでお知りになったか ⑧セミナーに期待すること

■ お問い合わせ先

京都造形芸術大学アート・コミュニケーション研究センター
担当 : 岡崎
http://www.acop.jp/ info@acop.jp
Tel : 075-791-9132 Fax : 075-791-9185
〒606-8271 京都市左京区北白川瓜生山2-116 人間館 1F



■ 研修受講者の声（一部）

- * 多様性の理解と受け容れを学べた。
- * 考えてもみなかった部分で、コミュニケーションロスが生じていることに気づくきっかけを与えてくれる研修でした。
- * 理解しがたい他者への理解のヒントももらえる研修だった。
- * この研修を受けたか受けないかで、相手に伝える、相手から情報を受け取ることに関しての前提が変わる人も多いと思う。是非、グループの多くの方がこの研修を受けて、この前提がお互いに共有されると、良いと思いました！
- * コミュニケーションの取り方に、イノベーションが起こるかもしれないと思った。
- * 「聴く」や「伝える」については、過去の研修で情報としてインプットはしていたものの、今回ほど、その重要性を体感することはなかった。
- * 新しい可能性の発見！一番良かったのは、どんな考えにもそこに至った経緯を確認することによって、自分とは別の考えに対しても理解を示すことができ、それだけではなくそのことをフックに新しいアイデアが出てくるということです。自ら体感できたのが良かったです。これまで自分と反する意見などに、経験や知識を盾に、否定的な発言をしてしまうこともありましたが、それは自分の可能性をも潰す愚かな行為だったと気づけたことが何より収穫です。
- * ものの見方は経験によって大きく異なる、同じものをみても「事実」と「解釈」には大きな相違がある等、感覚としては理解していたが、今回のワークを通して強く意識することができた。同時に、いかに自分だけの解釈に固執し、客観性が欠けているかということも自覚した。
- * アートを通しての学びは自然と気づかせてくれることが多く、インプット型の研修よりも格段に身に染みるものとなりました。
- * 普段何気なく過ごしていますが、相手が発する言葉の裏側にある真意を読み取ろうとすることは、今回のトレーニングでしっかり鍛えられたので、日々の生活で実施していきます。
- * 自分自身の行動変化に対するきっかけを掴めたと同時に、これからの業務に活かすポイントをみつけられた。
- * アートって考えることだった。
- * ひとりではみえなかったものが、他者といることでみえてくる。
- * 多様な考え方が、新たな見方をつくるという実体験。
- * 他者の視点を聴くことで、想像力を無限に広げられる。
- * 普段の対話では、実は相手の話を聴ききれていないことに気づいた。